

第49回 記者懇談会実施概要

1 日時 平成20年6月26日(木) 15時～

2 場所 関西大学会館 理事会議室

3 内容

(1) 研究発表・質疑応答 (15:00～16:00)

・柴 健次^{しば けんじ} 大学院会計研究科教授

発表テーマ「自治体の説明責任の確立と透明性の向上のための公会計研究」

・川崎 英也^{かわさき ひでや} 化学生命工学部准教授

発表テーマ「金ナノ粒子積層基板を用いた環境化学物質の超高感度検出法」

(2) 学内状況説明・情報交換 (16:00～16:30)

- ① 文部科学省平成20年度人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業採択について [資料1](#)
- ② 入学試験実施概要について [資料2](#)
- ③ 薬物事件再発防止対策本部の取り組みについて [資料3](#)
- ④ 中国四川省大地震及びミャンマーサイクロンに伴う支援活動報告について [資料4](#)
- ⑤ 岩手・宮城内陸地震被害に係る本学の対応について [資料5](#)
- ⑥ 関西大学政策創造学部及び商学部客員教授フランシス・フクヤマ氏講演会の開催について [資料6](#)
- ⑦ カレッジリンク型シニア住宅“クラブ・アンクラージュ御影”完成に伴う記者会見ならびにプレス内覧会の開催について [資料7](#)
- ⑧ 「地域アカデミー2008」の開講について [資料8](#)
- ⑨ 関西大学応援団および交響楽団による天神祭奉納神賑行事の実施について [資料9](#)
- ⑩ 文部科学省グローバルCOEプログラム ICIS第2回研究集会
「内藤湖南への新しいアプローチ—文化交渉学の視点から—」の開催について [資料10](#)
- ⑪ 図書館特別企画展「内藤湖南—近代日本の知の巨匠—」の開催について [資料11](#)
- ⑫ 関西大学EU—日本学教育研究プログラム国際ワークショップの開催について [資料12](#)
- ⑬ 関西大学ミュージアム講座「なにわの文化遺産(三)」の開催について [資料13](#)
- ⑭ 明日香村・関西大学連携事業「かんだい 明日香 まほろば講座」の開講について [資料14](#)
- ⑮ なにわ・大阪文化遺産学研究センター 第7回NOCHSレクチャーシリーズ
「なにわの食文化～『天下の台所』からみる日本食～」の開催について [資料15](#)
- ⑯ 環境省「CO2削減/ライトダウンキャンペーン」協力に伴う一斉消灯の実施について [資料16](#)
- ⑰ 関大生の活躍について [資料17](#)
- ⑱ 学生大地震避難訓練の実施及び地震対策本部の立ち上げについて

4 大学側出席者

河田悌一学長、安部誠治副学長、川原哲夫学長課長、
柴健次大学院会計研究科教授、清水涼子大学院会計研究科教授、宗岡徹大学院会計研究科教授、川崎英也化学生命工学部准教授、高瀬武典社会学部教授、村田忠彦総合情報学部准教授、山本秀樹環境都市工学部教授、川畑一成研究支援センター次長、木田勝也広報課長、他

5 参考資料

- (1) 関西大学 大学案内2009、進学ガイド2009
- (2) 平成20年度 地方教育懇談会 パンフレット
- (3) 経済・政治研究所 第182回公開講座 チラシ

以 上

自治体の説明責任の確立と透明性の向上のための公会計研究

関西大学大学院会計研究科教授

政府会計フォーラム代表（＊）

柴 健次

【概要】

1 少し前には夕張市の破綻が、また、近いところでは大阪府の財政再建プランが注目を集めている。一般には、内外ともに、財政が逼迫してはじめて公会計に関心が集まってきた。しかし、会計は、財政の困窮度にかかわらず、効率的な行政経営と誠実な情報公開の双方に役立つことが期待される。

2 関西大学の「市場と政府の経済、法及び会計に関する研究プロジェクトユニット」は、その下に平成 19 年 9 月に「政府会計フォーラム」を立ち上げ、自治体の説明責任の確立と透明性の向上のための公会計研究を開始した。このフォーラムには自治体 19 団体、監査法人 1 法人そして研究者 5 名が参加している。これまでに 5 回のフォーラムを終え、いくつかのテーマにつき、具体的な実務改善案が議論されてきた。

3 説明責任の確立と透明性の向上とを厳格に峻別して定義することは難しいが、端的には、不信をもたれないような方法で説明責任を果たすことが重要であると言えよう。説明責任は説明すれば足りるというものではなく、公開する情報が多ければ透明性が高いというものでもない。行政責任者の在任中の責任が明確になるように工夫された方法で情報が公開され、かかる情報が理解可能な形式で過不足なく公開されることこそ重要である。

4 説明責任の確立と透明性の向上という観点から求められていると思われるが、総務省が要請する公会計整備のための二つのモデルについては、いずれの自治体も苦慮している様子がフォーラムでの議論であきらかになってきた。総務省モデル以外にも、東京都モデルが参照できるし、独自のモデルの開発も考えられる。ソリューションとして、当面は負担感の少ない東京都モデルが現実的ではないか。

5 以下の諸課題についても、説明責任の確立と透明性の向上という観点から、そのソリューションが議論された。

Q 市民に分かるより良いディスクロージャーの在り方は？

S 市が負担すべき支払いは最大限に含まれるように会計の範囲を拡大すべき。また、役所の用語ではなく、市民が理解できる用語での説明になるよう市民の協力も仰ぐべき。

Q 予算と会計の整合性はどうか？ 出納整理期間における収支の処理は？

S 1 企業会計方式に従って処理する（3月末で締める）

S 2 S 1 + 出納閉鎖時に貸借対照表を補足的に作成

S 3 出納整理期の収支は3月末までに行われたものとして財務諸表を作成。

S 4 3月末までの期間と出納整理期の2つの財務諸表を作成

Q 貸借対照表の資産評価はどうあるべきか？

公正価値にどれほどの意義があるかとの批判・不安が続出

Q 財務4表をどのように活用するか？

財政健全化のための新財政指標にシフトした財政運営は当然行われるとしても、自治体を良く理解してもらうため情報開示を重視して住民の理解を得るようすべきである。

Q 役所における会計リテラシーはどうあるべきか？

勤務時間外の自発的な経理研究会を百回以上行ない、経理事務に役立てるための「法人会計ハンドブック」を作成した某市の経験に学んでみてはどうか。

（＊）副代表は中川暢三加西市長。

【柴健次教授 プロフィール】

天王寺商業高校、大阪府立大学、神戸商科大学大学院を卒業・退学の後、1982年大阪府立大学経済学部助手に着任。その後、講師、助教授、教授を経て、96年関西大学商学部教授、06年大学院会計研究科教授・研究科長、現在に至る。2003年に『市場化の会計学』で博士（商学）関西大学。この間、93-94年ロンドン大学LSE、01-02年LSE（2度目）およびアルカラ大学（スペイン）にて在外研究。税理士試験委員など各種委員を歴任、現在、公認会計士試験委員、日本学術会議連携会員、ディスクロージャー研究学会会長、会計大学院協会副理事長など。情報の開示と利用、企業価値とリスク分析、行政・財政と政策、ICT化とデータベース、クラス運営とeラーニングなどの領域における諸問題に対して会計がいかに貢献しうるかを研究している。会計研究科の全学生の公認会計士合格を目指す。連動して教育研究に傾斜してきている。

なお、当日は研究メンバーとして、本学大学院会計研究科から以下の2名の教員も同席します。

【清水涼子教授 プロフィール】

神戸市出身。東京大学法学部卒業。公認会計士、日本証券アナリスト協会検定委員。シティバンク、N. A. 東京支店にて3年半勤務後、1989年中央新光監査法人（みずず監査法人）入所。2000年8月中央青山監査法人（みずず監査法人）社員（パートナー）に就任。入所後約10年間、監査部にて企業監査に従事。その後公共セクター部に移り、公的機関への監査およびコンサルティング、海外の公会計先進国の実務の調査研究業務等を行う。日本公認会計士協会・公会計委員会 IFAC-IPSASB 対応専門部会長をはじめ、委員を歴任する。07年4月より関西大学大学院会計研究科教授に就任。専門は、自治体会計論、国際公開会計制度論。

【宗岡徹教授 プロフィール】

山口県宇部市出身。東京大学文学部で考古学を学び、神戸商科大学大学院で会計学を専攻。公認会計士、システム監査技術者、日本証券アナリスト協会検定会員、不動産鑑定士補。監査法人トーマツから日本興業銀行に転職し、企業審査、住専、人事、金融商品開発や年金コンサルティング等を担当。退職給付信託やいくつかのビジネスモデル等を開発。住専や年金等の社会的問題にも深く関わる。その後、ソニーに転じ、年金リスク管理を担当。その間、仕事の傍ら論文を執筆し、日本公認会計士協会の40周年と50周年の記念論文コンクールに連続入選を果たす。2005年より本学ソシオネットワーク戦略研究センター研究員。06年4月より関西大学大学院会計研究科教授。現在、内閣府経済財政諮問会議専門委員、財務省財政制度等審議会臨時委員、日本証券アナリスト協会試験委員会委員等。専門は、年金会計論、公会計論、財務分析論、管理会計論。

金ナノ粒子積層基板を用いた環境化学物質の超高感度検出法

化学生命工学部准教授 川崎英也

【概要】

金ナノ粒子とは、ナノサイズ（1 ナノメートル＝百万分の 1 ミリ）の金の粒子のことである。金ナノ粒子は昔から使用されており、中世のステンドグラスの鮮やかな赤色はガラスの中の金ナノ粒子によるものである。日本でも、伝統的なガラス工芸品である薩摩切子などに、「金赤」で代表されるように、金ナノ粒子がガラスの着色剤として使われている。金色ではなく、赤色？と思われるかもしれないが、この現象は、バルク状態にある金塊とは異なる金ナノ粒子が示すユニークな特徴である。近年、このナノサイズの粒径ゆえに発現する特殊な機能や物性が金ナノ粒子で新たに見出され、未来を支えるナノテクノロジーの新材料として金ナノ粒子は世界的に注目を集めている。例えば、ごく微量の生体関連物質を高感度に検出する技術として、金ナノ粒子が利用されており、既に、医療診断（インフルエンザなどの感染症検査、妊娠検査、糖尿病検査など）を迅速、高効率、かつ簡便に行うための金ナノ粒子を利用した診断キットが実用化されている。

近年、ダイオキシン類、残留性有機汚染物質（POPs）、農薬等の成分による環境汚染が深刻な社会問題となっている。地球環境の保全のためには、これらの環境汚染物質の発生状況や暴露状況の実態調査用にppm～pptレベルでの化学物質測定を行う高度な化学計測技術が必要とされている。このような背景の中で、私たちは、ごく微量の環境有害物質を高感度に検出するためのナノ粒子の開発を行っている。本懇談会では、“金ナノ粒子を利用した環境化学物質の超高感度検出法”の発表を行う。その特徴は、金ナノ粒子分散構造体が積層されている基板を“マトリクス支援レーザー脱離イオン化質量分析法（MALDI-MS）”に適用できるように世界で始めて開発したことにある。MALDI-MSは、島津製作所の田中耕一フェローが2002年にノーベル化学賞を受賞した日本発の高感度分析手法としてよく知られている。本手法により、国が定めるPRT法対象化学物質である界面活性剤を10 fg/L（fg=10⁻¹⁵g, 1000兆分の1）でも検出できることを明らかにした。これは、計算上、耳かき一杯の試料（数十mg）を琵琶湖（総推量：275億トン）に溶かしても、試料を検出できる感度に相当する。また、環境中で残留性が高い物質として問題視されている多環芳香族炭化水素（PAHs）も、高感度に検出できることを見出した。

【プロフィール】

1970年兵庫県生まれ。関西大学化学生命工学部 准教授。1998年九州大学大学院理学研究科博士後期課程修了、博士（理学）。学術振興会特別研究員の後、99年に九州大学大学院助手となり、06年より関西大学に助教授として着任。日本化学会コロイドおよび界面化学部会 松浦賞（99年）及び科学奨励賞（03年）、質量分析討論会優秀論文賞（07年）を受賞。専門は、界面コロイド化学、高分子化学。研究テーマは、ナノ粒子の創製と応用展開、界面における自己組織化。